

2017 年度 学術交流支援資金報告書

研究課題名	外国語電子教材作成支援プロジェクト No. 3-3 日本語ベーシック 1～4、日本語インテンシブ 1～4
研究代表	杉原 由美 総合政策学部・准教授
研究メンバー	伴野 崇生 政策・メディア研究科・特任講師

1. 研究(本電子教材作成)の背景および目的

本教材は SFC で学ぶ留学生・帰国生が、防災・減災に必要な日本語について学ぶための動画教材である。

言うまでもなく、言語的マイノリティは情報へのアクセスに困難を抱えやすい。災害発生時のような緊急事態においては尚更である。この問題については既に多くの指摘がされており、阪神・淡路大震災以降、日本語非母語話者への災害時の対応として「やさしい日本語」(非母語話者にも理解しやすい、平易な日本語)の普及が推進されてきた。また、近年では国や地方自治体、NPO 等が主体となり、多言語による防災・減災情報発信も積極的に行われるようになってきている。(例えば、藤沢市『外国の方のための多言語防災ガイド』、公益財団法人かながわ国際交流財団「INFO KANAGAWA(災害情報メールサービス)」など)。さらに、SFC では、大木聖子准教授による入学時の防災ガイダンス、講義科目等の形で学習機会が提供されている。このように、SFC の留学生・帰国生らが防災・減災について触れる・知る・学ぶ機会は、以前と比べれば増えてきているが、これらの機会も全ての学生が得られているわけではない。本教材は、防災・減災について留学生・帰国生が学ぶ機会をさらに増やし、より多くの学生が確実に、効果的に防災・減災に取り組める環境の整備を目指して作成されたものである。

2. 教材作成の成果

<https://sites.google.com/keio.jp/sfcnihongobousai/>

出演者の肖像権等に配慮し、塾内限定公開
(keio.jp へのログインが必要)



図 1 トップ画面

2 教材について

2-1. ライフハック

ここでライフハックとは IT やビジネスで使われるよりも広義に捉え、「仕事術・生活術」の意味で用いている。本教材の文脈でいえば「防災・減災術、被災時における生活術」であるとも言える。

防災・減災について学ぶ際、防災・減災への備えを「特別なこと」としてしまい、普段の生活と切り離してしまっては実際に備えを行うモチベーションを下げってしまうことになりかねない。本パートでは、日常生活ですでに使っているものをどのようにして「ライフハック」するかについて扱った。具体的には、「じゃがりこ（じゃがいもで作られたスナック菓子）をつかったポテトサラダの作り方」「水がなくてお皿が洗えないとき」「ペットボトルランタン」などについて扱い、今後も作成でき次第、順次アップしていく予定である。なお、各動画とも「一般的な日本語」と「やさしい日本語」の2バージョンを作成することにより、幅広い日本語レベルの学生が視聴できるように配慮した。



図 2 ライフハック（水がなくてお皿が洗えないとき）

2-2. インタビュー

本教材で学ぶ留学生・帰国生が、自分自身の防災・減災意識について振り返ることができるよう、様々な背景の人たちに依頼し、それぞれの防災・減災意識について語ってもらった。ここで挙げられているインタビューについて、自分は思うかについて日本語クラス内で議論したり作文を書いたりする活動に用



図 3 インタビュー

いる予定である。

2-3. ミニ講義

本パートは防災・減災に関するミニ講義である。講義動画は各5分以内を目安に作成した。5分以内を目安としたのは、MOOC(Massive Open Online Course)等でも動画は5分前後(長くても10分)とされることが多く、逆に5分をこえた場合には5分経過以降受講生の集中力が落ち始めることが学習ログの分析から指摘されているからである。本教材の使用言語が、外国語もしくは第二言語としての日本語であることを考慮し、1本の動画が長くなりすぎないように配慮した。

報告書作成時点では、「防災・減災について考えよう」「賞味期限と消費期限」「カップ麺に水を入れて食べてみよう（電気やガスがとまっていてお湯がわかせないときのために）」「防災バックの中身を見てみよう」などといったコンテンツがアップされているが、今後も順次アップされていく予定である。

3. 今後の課題・展望

今後の課題はこれまで作成してきた教材を質的にも量的にも充実させていくことである。それに向けた具体的なアクションとして、まずは日本語クラス内での試用を行い、必要に応じて修正、追加を継続して行なっていきたい。特に、インタビューについては現時点では、実際に直接的に大きな災害にあった経験がある人のものがないため、今後トラウマ等の問題がなく、かつSFCの留学生・帰国生用の学習教材として使ってよいというインタビューイがいれば、体験等について語ってもらえればと考えている。

文責：伴野崇生（とものたかお） 政策・メディア研究科 特任講師



図 4 ミニ講義